

意見の概要及び意見に対する市の考え方（考慮した結果及びその理由）

No	意見の概要	意見に対する市の考え方 (考慮した結果及びその理由)
1	①基本方針3「戦略的な誘客と効果的な情報発信」について ・日田市には、JR 在来線、特急や高速バスなど福岡都市圏から誘客できる交通手段があるのにも関わらず、交通機関と連携した観光 PR が足りていないように感じる。事業者が独自に行う誘客に向けた情報発信に対して、行政の後押しが必要なのではないか。 ・高速バスが運行されている博多、天神、福岡空港のバスターミナル等で PR 活動を行うなど、交通事業者と連携した情報発信を進めるべきではないか。	①交通事業者と連携した観光 PR については、「久大本線観光連絡会」や「新幹線活用久大本線活性化協議会」等における情報発信のほか、J R 博多駅や熊本駅、博多バスターミナルにおいての誘客促進に向けた取り組みを行ってきたところです。 交通事業者との連携による情報発信は、本市への誘客促進や観光地としての認知度向上を図るためには重要なことと考えています。 本計画の基本方針5. 基本施策②「広域的な観光連携の推進」における取組として、交通事業者を含めた関係機関、JR 久大本線沿線自治体や近隣自治体等との連携により、観光情報の発信、観光プロモーション等を展開してまいります。
	②基本方針4_基本施策①の取組「観光施設等における感染症対策の徹底とキャッシュレス化の推進」について ・バスターミナル、バス、タクシー、JR でもキャッシュレス化を推進すべきではないか。	②基本方針4. 基本施策②の取組である「観光施設等における感染症対策の徹底とキャッシュレス化の推進」については、交通施設におけるキャッシュレス化も、観光施設と同様、観光客の利便性向上にとって必要な環境整備と捉えています。また、日田市地域公共交通計画での取組においても「キャッシュレス決済導入の検討」が挙げられ、支払い時の負担軽減のため、市内全域でキャッシュレス決済の導入を検討することとしており、公共交通担当部署を通じて、交通事業者に対する働きかけを行ってまいります。

1	③基本方針4_基本施策②の取組「観光施設等への効率的な移動を実現するための新たなモビリティサービスの研究」について ・具体的な導入を検討しているエリアがあれば伺いたい。 ・既存の交通手段を有効活用するという考えはあるか。交通事業者のみならず、市の公共交通担当部署と共に検討すべき。	③基本方針4. 基本施策②の取組である「新たなモビリティサービスの研究」については、由布市、九重町、玖珠町、日田市の4自治体及び各観光協会で組織する「ひた・玖珠・九重・ゆふ連携観光対策会議」において、4市町を拠点としたMaaS※実証実験に取り組んでいるところです。 既存の交通手段の有効活用については、基本方針4. 基本施策②「旅行者の周遊を促す環境づくり」において取組を進めるとともに、日田市地域公共交通計画では「持続可能な公共交通ネットワークの維持確保」における取組として、既存の公共交通機関の効率的な運用を図ることとしており、旅行者が効率的に移動できるよう、公共交通担当部署と連携した取組を進めます。また、公共交通を補完する手段として、レンタサイクルを推進すること等により、郊外から街中への誘導や回遊性の向上など、周遊観光の仕組みづくりにも取り組んでまいります。 ※MaaS（マース）：Mobility as a Service の略。スマートフォンなどで観光客の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて、検索、予約、決済等を一括して行うサービス。
	④基本方針4_基本施策②の取組「イベント時の駐車場や交通対策における地域住民や関係機関等との連携」について ・空き家を利用した駐車場の確保等ができないか。 ・イベント時に玉川交差点付近の渋滞が目立つことから、渋滞対策を行ってほしい。	④空き家を利用した駐車場の確保等につきましては、住宅等の遊休地を利用するシェア型パーキングサービスの活用に取り組んでいます。また、イベント時の渋滞対策については、日田警察署や交通警備会社等を交えた交通対策会議を設け、相互に情報共有を図りながら、機動的に対応しており、今後もより効果的な渋滞対策を講じてまいります。

1	⑤久留米市などのように、交通事業者との包括連携協定などを締結してもよいのではないか。	⑤交通事業者との連携による取組については、基本方針5. 基本施策②「広域的な観光連携の推進」における取組として、交通事業者を含めた関係機関、JR 久大本線沿線自治体や近隣自治体等との連携により、観光情報の発信、観光プロモーション等を展開し、効率的な事業推進を図ってまいります。 交通事業者との包括連携協定については、九州旅客鉄道株式会社久留米鉄道事業部と沿線自治体が連携した「久大本線観光連絡会」や九州旅客鉄道株式会社と民間企業等の包括連携協定による久大本線沿線の観光振興を目的とした取組が既に行われおり、今後も交通事業や近隣自治体と連携した取り組みを推進してまいります。
2	①旅行者の滞在時間の延伸を図るため、豆田町等に進撃の巨人のマンホールを設置して、周遊させる企画が出来ないか。また、JR 日田駅の発車ベルを進撃の巨人のテーマ音に出来ないか。	①「進撃の巨人」を活用した誘客促進については、基本方針2. 基本施策②の「ターゲットに応じた観光コンテンツの創出」として取り組んでまいります。「進撃の巨人」の作者である諫山創氏のゆかりの地を巡る旅行者が増加していることから、市としても「進撃の巨人」を活用した誘客促進に取り組むべきものと捉えており、スタンプラリーの実施やスマートフォンアプリを利用したARの設置を行うなど、旅行者の周遊を促す取り組みを進めています。 マンホールの設置と発車ベルの変更につきましては、著作権料を継続的に負担する必要がありますので、今後、「進撃の巨人」を地域活性化に活かすために関連事業者等が参画した「進撃の日田まちおこし協議会」においても本内容を共有してまいります。

3	地域資源を活かした観光コンテンツについて ①豆田は魅力ある観光地? 現在、豆田町は観光の魅力を無くしていると感じます。理由は街の景観(ハード)と販売店舗(ソフト)アンバランスが起きています。全国のほとんどの観光地が魅力を無くす原因になっている理由の一つです。以前は住民や店舗を構えている方々全体のコンセンサスが貫いていた感がありましたが、実践された方々が高齢になり第一線を外れる方もいて、現在、方向性がバラバラで魅力を感じません。観光客の多くは訪れるが何も買わないように感じます。地元らしさの商品を販売している店舗は少なく、どこでも買える商品店舗が多く感じます。今後、観光コンテンツの磨き上げに対してイメージだけでなく街全体の共通のビジョン形成も必要と感じます。	①基本方針5「多様な関係者の連携による持続可能な観光地域づくり」にありますとおり、日田市観光協会内に設置された、観光関連事業者、行政等で組織された「日田市観光戦略会議」が中心となり多様な関係者と合意形成を図りながら、観光地域づくりを進めていくこととしており、観光ビジョンを『「九州一、水の恵みが感じられる町」になる。』、コンセプトを『水が磨く郷』とした日田市の観光戦略を定め、本計画もその共通ビジョンとなる観光戦略に基づき策定したものです。 本計画では、基本方針1「地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げ」において、本市の強みである自然資源と地域産業や歴史、文化の魅力を活かしながら、地元住民が誇る魅力を引き出すことで地域の活性化を図ることとしているところです。 今回頂いた貴重なご意見は、日田市観光戦略会議においても共有し、議論いたします。
	②どこでもある田舎じゃない日田の田舎の魅力を活かすのは人と食旧郡部の地域資源の活かした観光でアウトドアの活性化は欠かせません。 現在、前津江のスノーピークや中津江オートキャンプ場などキャンプブームでコロナ禍でも多くの方が利用している。そこに支援拠点の設置ができないか。地元の高齢者から集めた野菜や地元料理(だご汁などの料理のテークアウト)をキャンプ利用者に販売など支援することは多くあります。キャンパーも食材などどこかで調達するのですから販売すれば利用すると思います。また、休畑や休田を利用したキャンパー向けの体験農園や契約農園などどこでもある田舎ではなく、ここでしか体験できないことはたくさんあると思います。当然地元に対しての支援や雇用にも繋がると思います。地域の魅力は人です。ハード事業だけでなくソフト面も考えてください。	②奥日田地域においては、地域の事業者等で組織する「奥日田デザイン会議」における事業者間連携の効果として、「水辺の郷おおやま」「鯛生金山」「せせらぎ郷かみつえ」といった道の駅をはじめ、「スノーピーク奥日田」でも、キャンプ場利用者の消費を見込んだ地元食材等の販売を行うなど、各観光施設で取り扱う食材等は地域で生産されたものを活用するといった域内調達の促進が図られているところです。 本計画では、地域資源を活かした体験型プログラムづくりについては、基本方針1「地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げ」及び基本方針2「ポストコロナ時代を見据えた新たな観光の魅力づくり」の取組として進めることとしており、「奥日田デザイン会議」においても、地域資源を活かした観光誘客への取組を推進しており、体験型のアウトドアコンテンツの充実に取り組んでいるところです。

3	③水郷日田の魅力を感じるかな？ 水郷日田と観光客を感じるか疑問です。理由は水のイメージが身近に感じないからです。 三隈川は朝日や夕日の時間帯や素晴らしい景観や屋形船などがありますが身近に感じますがほとんどの観光客は橋を通過する程度です。花月川は魅力を感じません。他の地域では、柳川は堀に川が流れ舟遊びや周りに商店があり川を身近に感じます。阿蘇は透き通った冷たい水を手に取って体感できます。日田市も身近に感じる場所があります。そのためにも整備は不可欠だと思いますがいかがでしょうか？	③日田市は古くから水郷の名で呼ばれ、水の恵みは、産業や歴史、文化等を通して私たちの暮らしに深く関わっており、日田市観光の「強み」と捉えていることから、水を身近に感じる取組は必要だと考えます。 本計画の基となる日田市観光戦略では、コンセプトである「水が磨く郷」を具現化する取り組みとして、水の恵みが体感できる、着地型・体験型旅行プログラムの開発や、既存の観光資源の磨き上げ、新たな魅力づくりによるブランディングを行うこととしています。 本計画では、基本方針1.基本施策①「自然資源の活用」の取組として、地域資源を活かした着地型観光を推進することとし、水を含んだ本市特有の自然資源の魅力を有効活用し、自然の魅力を気軽に楽しめる環境づくりを進めることとしており、今回頂いた貴重なご意見は、日田市観光戦略会議においても共有し、議論いたします。
---	---	--